






小中一貫教育だより

「つなぐ」

～中学校区の実態に応じた取組を求めて～

 目標をつなぐ
 カリキュラムをつなぐ
 子どもの心をつなぐ
 教職員の意識をつなぐ
 家庭・地域の絆をつなぐ
「小中一貫教育！」



令和4年度 No.11 (2023.3.15)
担当：熊本市教育委員会事務局
学校教育部指導課

各中学校区の取組をつなぐ

小中の子どもたちをつなぐ取組(異学年交流)が行われています。

長嶺中学校区(長嶺中2年生、長嶺小・託麻南小6年生)

「児童生徒交流事業」

3月7日(火)、3月14日(火)、長嶺中2年生の代表の生徒たちが、それぞれ出身校の長嶺小、託麻南小学校を訪問し、6年生の「総合的な学習の時間」の授業を行いました。6年生の各クラスに、3名の中学生たちが、6分間程度のローテーションで回りながら、コミュニケーションスキルトレーニング(レクリエーション的なエクササイズ)を実施しました。なごやかな雰囲気の中で楽しい交流が行われるとともに、中学生たちからは「安心して入学してください!」「長嶺中学校は成長できる学校です。困ったことがあったら先輩たちに遠慮なく聞いてください!」「やるべきことは全力で取り組む!」「中学校は、小学校の半分(3年間)しかないので、充実した生活をしてください!」など、先輩としてのメッセージが送られていました。

下益城城南中学校区(下益城城南中学生徒会、杉上小・隈庄小・豊田小6年生)

「小中連携中学校説明交流会」

3月8日(水)、下益城城南中学生徒会の生徒たちが、オンラインで杉上小、隈庄小・豊田小の6年生の児童に向けて、中学校の説明会を行いました。最初、動画による中学校生活(登校の様子、中学校の授業、校舎内の様子、委員会活動、登下校の仕方、危険箇所、部活動)が紹介され、〇×クイズ(中学校生活に関する問題)や質問タイムで交流が行われました。最後に児童から「私は今まで中学校のことを全く知らなかったけど、今日の説明で中学校のことを知ることができました。やったことのない部活にも面白そうなのがあったから入ってみたいと思いました。(隈庄小)」「中学生になることを考えると、色々な不安がありました。先輩方の話を聞いて元気が出ました。中学校では、先輩方のような立派な中学生になりたいです。(杉上小)」「私は中学校に入ったら図書委員会に入ろうと思うのですが、図書室が広くてきれいだったのでとても楽しみです。今は算数があまり得意ではないので、中学校に入ったら数学を頑張りたいです。(豊田小)」とお礼の言葉がありました。

これらの取組により、小学6年生にとっては、中学生活への不安が軽減されるだけでなく、中学生にとっても、思いやりの心やリーダーシップの育成につながっていくものと考えられます。

【第7章 多様な異学年交流の設定】

異学年交流を実際に行った場合の成果として、以下のようなことが挙げられています。

- ① 友達や下級生に優しくできる児童生徒が増えた
- ② 相手の気持ちをよく考えて付き合おうとする児童生徒が増えた
- ③ 中学校の生徒の責任感や自己肯定感が高まり、学校全体が落ち着いた






小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引 (mext.go.jp) 【p.78】より

Ctrl+クリックを!

小中一貫教育だより

「つなぐ」

～中学校区の実態に応じた取組を求めて～

-  目標をつなぐ
 -  カリキュラムをつなぐ
 -  子どもの心をつなぐ
 -  教職員の意識をつなぐ
 -  家庭・地域の絆をつなぐ
- 「小中一貫教育！」



令和4年度 No.12(2023.3.15)
担当：熊本市教育委員会事務局
学校教育部指導課

各中学校区の取組をつなぐ

R4年度モデル校の報告書が提出されました！

研究モデル校報告書「指定を受けた成果」より一部抜粋

城南中学校区(川尻小・城南小・城南中)

- 「算数・数学」と「道徳」の小中一貫カリキュラムマネジメント表を作成することで、縦（小中の関連、他学年との関連）と横（指導内容の関連）の系統性がはっきりし、次の学年につなげるために必要なことを意識した授業改善に取り組むことができた。
- 道徳を「生命の尊さ」で揃えたことがよかった。道徳と他の教育活動との関連付けができた。体験したことを道徳で深めていくことを意識しながら今後の教育活動を行っていく共通理解ができた。
- 年間2回の数学・道徳の意識調査を行い、小学校と連携してアンケートをすすめることができた。児童生徒の実態に基づいた計画的な授業実践に結び付いた。特に中学2年生においては、市の学力検査において数学の偏差値が1.2上昇した。
- 7月に行った川尻小での授業参観では、小中一貫カリキュラムマネジメント表に沿った「道徳」の授業を全学級で公開し、城南中校区で「生命の尊さ」を重点項目として取り組んでいることを保護者に啓発することができた。
- 城南小で公開授業を行ったことで中学校の先生方から小学校の丁寧な取り組みを評価していただくことができた。
- 小中一貫教育の研究モデル校として取り組む中で、これまでは中学校3年間で対応を考えていた基礎学力向上や家庭学習の充実などの課題に対して、小学校からの9年間を活用しながら連携できるため、大きな心理的余裕が生まれた。

下益城城南中学校区(杉上小・隈庄小・豊田小・下益城城南中)

- 校区の小中学校の共通課題を共有したことで、連携の柱と一貫カリキュラムに全職員が課題意識をもって取り組み 従来の教師主導の教育から児童主体の教育へ転換する重要性が認識された。
- 人権教育の共通教材の実践により、子どもたちが低学年からの学びを振り返りながら学習を進め、正しい知識を持つことで差別を無くしていこうとする態度が育まれてきた。8月は町の合同研修会で学年ごとに実践報告会、11月、杉上小で人権学習の公開授業を行った。各学校の取組を聞き合う時間がもつことができた。
- 算数・数学においては、タブレットのアプリにある「けいさん名人」に小中全員、学年に応じた範囲を決め取り組んだ。学校でも、家庭でも、積極的に取り組む姿が見られた。
- 家庭での学習習慣の確立のため「家庭学習の手引き」を作成し、幼稚園・小学校・中学校全家庭に配布した。手引きを基にし、学年に応じた家庭学習に取り組んでいる。提出されたノートから、主体的に家庭学習に取り組んだことがうかがえる児童も見られた。
- 次年度からの小中一貫校として、何に取り組めばよいかが見えてきた。また取組の柱が絞られたことで、教師が指導の工夫をしようとする動きが増えたこともあり、生徒の学習活動が活発化してきた。小中の職員が直接話し合う場が増え、幼小中の距離が縮まってきた。
- 全体を通して、下益城城南中学校区全体で取組、方向性を確認し、実践したことはよかった。

鹿南中学校区(田原小・菱形小・桜井小・鹿南中)

- 「9年間を通した教育目標」を設定したことで、ゴールを踏まえ、先を見据えた教育を意識することができるようになった。
- 小中一貫カリキュラムを作成したことで、学年間や小中の系統が明確になった。明確になったことで、職員も系統を意識しながら日頃の授業や指導にあたることができた。
- 外国語については、共通の掲示物を作成したり、中学生からの英語でのメッセージを掲示したりと、児童が小中のつながりを意識できるような工夫がされていた。また、zoomを使って同じ中学校区の他校児童と交流する機会を設けたことで、中学校でともに過ごすことになる児童同士のつながりをつくることができた。
- 6年生でのハンセン病の学習では、授業の内容を統一し、各小学校で同じ学習を行った状態で中学校に進学することができた。
- 総合的な学習においては、小学校6年時の学習と中学校1年時の学習をうまくつなげるための計画づくりを行うことができた。
- 鹿南中学校の「学習の心得5カ条」を基に、各小学校で、それに準じた「学習のおやくそく」を作成することができた。また、6年生には、3学期に鹿南中の心得を実際にも実践し、中学入学後のギャップを少しでも軽減させることができた。
- 校区の一番の課題は「学力の向上」であることを再確認し、来年度からドリルパークの時間を朝自習時に位置付けて、小中全校で取り組んでいくことを確認することができた。

五霊中学校区(植木小、山本小、山東小、五霊中)

- 算数・数学の小中一貫カリキュラムを作成したことで、系統性を意識できるようになった。また、学力検査や日常の指導から考えた重点単元を決めて、各学校が中学三年生までの発達を意識して授業実践を行うことができた。教職員アンケートより「中学校で子どもたちが困っている単元などを聞くことができ、小学校からの学習がつながっていると感じた。」「小中間の課題を認識し、それに向かってどのように対応していくかを考えることで、小学校の役割を改めて認識することができました。」「
- 道徳の小中一貫カリキュラムを作成し、重点項目を「親切・思いやり」「善悪の判断、自立、自由と責任」「勤労・公共の精神」と決めて実践することを通して、教師も児童も意識を高めることができた。4校が「親子道徳の日」の共通実践を行い、家庭と連携した道徳教育について、取り組むことができた。
- 特別支援教育に関して、これまでの小中連携では児童生徒や実践の情報交換のみで終わることが多かったが、今年は「共通実践」という視点を持って取り組んだ。特に自立活動の分野において、9年間で系統性のある内容にするために、実践の実態を共有した。今後、教材の共有や共通実践を行っていく方向で調整している。また、個別の教育指導計画と教育支援計画について、現在各校独自の形式で作成しているので、必要な共通項目を入れていく予定である。
- 4校共通の学習ルール「学習三訓」を作成し、1年間通して実践した。
- 養護部会では、メディアコントロールデーの取組を共通実践した。
- 図書部会では、本の紹介などを学校間で行い、4校が連携して実践した

熊本市では、Aグループ(小1中1)、Bグループ(小複中1)の全ての小中学校が、モデル校を経て、R7年度には小中一貫校へと移行していく予定です。今年度のモデル校の実践を参考にされ、各中学校区の実態に応じて、特色ある小中一貫教育を進められてください。

【評価と改善】

小中一貫教育は、導入を宣言したから成果が出るというような単純なものではありません。先行事例の関係者によれば、**教職員の意識変革が行動の変革になり、教育課程や指導の改善が行われる結果、様々な面でじわじわと効果が出てくる**ことが多いようです。文部科学省の調査でも、経過年数が長い取組の方がより多くの成果を認識していることが明らかになっています。

[小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引 \(mext.go.jp\)](#) 【p.34】より

Ctrl+クリックを！